

# ショコラ (Chocolat)

観賞日 2024年12月9日 上映時間 121分

## 【概要】

制作 2000年 アメリカ、イギリス

監督 ラッセ・ハルストレム

脚本 ロバート・ネルソン・ジェイコブス

原作 ジョアン・ハリス 『ショコラ』

音楽 レイチェル・ポートマン

撮影 ロジャー・ブラット

出演 ジュリエット・ピノシュ (ヴィアンヌ)、ジョニー・デップ (ルー)

ヴィクトワール・ティヴィソル (アヌーク)、ジュディ・デンチ (アルモンド)

アルフレッド・モリーナ (レノ伯爵)



## 【あらすじ】

北風の吹く寒い日、ヴィアンヌとアヌークの母娘がフランスの小さな村にやってくる。村は伝統を重んじる保守的なところで、リーダーはレノ伯爵。母娘はそこで「チョコの店マヤ」を開く。敬虔なクリスチャンのレノは、ヴィアンヌが未婚の子持ちで、四旬節の断食期間中に開店したことに腹をたて、村人にマヤに行かないよう言いふらす。そんな中でも、チョコの味とヴィアンヌの人柄で店の大家のアルモンド、DV被害者のジョゼフィーネなどが常連客になり店の経営も安定してくる。ある日、ジプシーの一行が村にやってくる。村人は彼らを拒否するが、同じ流れ者のヴィアンヌは受容れ、ルーと愛し合うようになる。村人とジプシーを招きパーティを開くヴィアンヌ。しかしその晩、ジプシーたちの舟で火事が起き、彼らは村を出ることに。その後、レノも悩んだ末にヴィアンヌが作ったチョコの味に魅せられて店の存在を認めるようになる。そして、母娘は村に定住するようになる。

心が和み、観る者を幸せな気分浸らせてくれる不思議な力を持った作品。

## 【解説】

### ■ポイント

#### ●ジュリエット・ピノシュ (1964年～)

演出家の父と女優の母との間にパリで生まれ12歳で初舞台を踏む。パリの国立演劇学院で演劇を学ぶ。「ゴダールのマリア」(84年)で注目を集め、「トリコロール青の愛」(93年)でヴェネツィア国際映画祭女優賞を受賞。「イングリッシュ・ペイシェント」(96年)でアカデミー賞主演女優賞、ベルリン国際映画祭女優賞、「トスカーナの鷹作」(10年)でカンヌ国際映画祭女優賞を受賞し、世界三大国際映画祭すべてで女優賞を受賞した名優。



#### ●受賞 (2001年第72回アカデミー賞)

5部門でノミネートされるが受賞なし

### ■見どころ

#### ●食 (例えばチョコレート) がもたらす不思議な力、幸福感

人を救う力のあるものは。宗教・・・。

#### ●定住者と流れ者、保守派と革新派

#### ●復活祭で若きアンリ神父が説教したこと